

POSA 事業報告

Project
Operation
Sight for
All

No. 23

●2019 年度



POSA 目次

理事長より	
『ちんどん屋』 と 『オペレーターズハイ』	
POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀	・・・P1
副理事長より	
『4 年ぶりの手術』	
POSA 副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望	・・・P10
国際エンゼル協会より	
『POSA アイキャンプを実施して』	
特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ事務局長 前田 泰宏	・・・P11
『POSA のみなさん、こんにちは。』	
特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ	・・・P12
ライオンズクラブより	
『SDGs とライオンズクラブそしてアイキャンプ』	
2019 年度 神埼ライオンズクラブ会長 中村 輝行	・・・P13
『Thanks for your Support』	
バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー Md.Mobarok Hossain MJF	・・・P14
アイキャンプ参加者より	
『アイキャンプを通して問い、学ぶ』	自治医科大学 眼科 佐野 一矢・・・P15
『一石三鳥』	自治医科大学 眼科 長岡 広祐・・・P17
『アイキャンプに参加して』	くまもと森都総合病院 視能訓練士 吉田 幸代・・・P19
『カレーな日々』	出田眼科病院 視能訓練士 高橋 慎也・・・P21
『10 年ぶりのアイキャンプ』	菊池眼科 看護師 春日 望・・・P23
『アイキャンプに参加して』	えだみつクリニック 看護師 枝光 順子・・・P25
『Third World Country』 都築育英学園 リンデンホールスクール中高学部 枝光 萌里	・・・P27
2019 年度事業報告及び 2020 年度事業計画	
ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入金金納入のお願い	・・・P29
ふるさと納税での POSA への寄付の方法	・・・P30
ふるさと納税の返礼品	・・・P31
2019 年度事業報告	・・・P32
POSA アイキャンプ白内障手術の症例数	・・・P33
2020 年度事業計画	・・・P34
2020 年度 POSA アイキャンプの日程	・・・P35
ご支援頂いた方の一覧表	・・・P36
POSA 理事・監事・名誉会員・一般会員名簿・POSA 規約(一部抜粋)・入会のお願い	・・・P37

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ちんどん屋』 と 『オペレーターズハイ』

POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長
倉富 彰秀

高校3年の時の同級生（林 幸治郎君）が大阪で『東西屋』というちんどん屋をやっている。

ちんどん屋サロンと称したライブパフォーマンスを事務所で酒を飲みながら楽しみましようというものがあったので2020年1月下旬に学会の後に時間が取れた為、参加してみた。大学時代に「ニューオーリンズジャズ研究会」を立ち上げたが、京都の街中を練り歩くちんどん屋に魅入られてしまい名前を「ちんどん研究会」に変えた。それから40年以上「ちんどん」一筋である。2時間の楽しい会に参加してその芸術性の高さに感動し、また昭和レトロの雰囲気にとっぷりと浸って帰ってきた。

彼がちんどん屋を始めた時友人、親戚、知人から「お前はあほか？」とか「それともばかか？」などの罵詈雑言を浴びせられたらしい。もともと彼はそのような事を気にするようなタイプの人物ではなかったので自分がやりたいと思ってその道を極め、2020年2月にはアメリカの大学に招聘されて記念公演を行うそうである。ボストン大学、マサチューセッツ工科大学、ニューヨーク州大学その他、有名どころの大学。しかし、最新情報によると新型コロナウイルスの影響で今回の訪米は中止され、秋に延期となったとの事。なお、今までに20回以上USAには呼ばれて招待公演をしており、ここ数年はNHKの特別番組として放映されたり朝ドラなどにもちんどん屋として出演したりしている。年間の国内公演も700回を超えている。



林 幸治郎君主催のチンドン屋

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

振り返ってみれば私もアイキャンプを始めた頃、周りのドクターからの好奇の目があったように思う。今でもでしょうが。ただ私の周辺では「お前はあほか？」とか「それともばかか？」などと口に出す人はいなかった。しかし、そういう気持ちがあっただろう事は想像に難くない。良く言ったとしても「あんたはえらい。」程度。これは京都言葉で「京都でえらいと言われても、いばれへん。」というやつである。つまり、「あんさん、どあほどすな。」という意味である。もちろん私もそんなことを気にする性格ではないので今まで好きにやってきた。そうこうしているうちにインドにての6年間の眼科医療援助（通称アイキャンプ）に引き続き2000年よりバングラデシュでアイキャンプを行ってすでに計26年。

しかし、2016年のダッカでの日本人を含めた大量殺人の為、約3年間全世界からのボランティア活動はかなり自粛されていた。POSAも3年間現地活動を自粛した。

2016年17年18年の3年間は神埼ライオンズクラブの申請で得られたLCIF寄付金を利用していただき、現地ダッカのライオンズクラブ眼科病院にての貧しい患者様の為の白内障手術基金とした。毎年50名程度の方に白内障手術を現地ライオンズクラブ病院にて施行していただいた。

2018年11月初旬に副理事長の井上望先生と安全性確認の為に現地を訪問した。状況をみておそらく問題ないのではないかという結論に達した。

この為、今回は2019年11月初旬の連休を利用したアイキャンプとなった。2015年以来4年ぶりのアクティビティー（活動）である。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

今回再開するにあたり、予算、参加者に関しては副理事長の井上望先生の御尽力を多く頂いている。というよりも本年度、神埼ライオンズクラブよりの国際協力金が得られなかった（LCIF 基金）。2003 年から 17 年間に渡り毎年 1 万ドル（約 100 万円）のライオンズクラブからの御寄付は大変ありがたかったのですが今年度は中止となっている。来年度以降も不明である。これを補ったのが主に井上望先生からのふるさと納税による御寄付である。熊本県在住の井上望先生から毎年多くのふるさと納税をして頂いており、これが今年度の予算不足を補うこととなった。ところで、昨年度よりふるさと納税の基準が厳しくなった。この為、佐賀県在住の方々からのふるさと納税は寄付金控除はあるが、返礼品はつきません。佐賀県以外に在住の方では寄付金控除と返礼品両方とも可となっています。本年度以降につきましても佐賀県以外に在住の方々からのふるさと納税を強く期待しています。ふるさと納税の詳細につきましては 29 ページを御参照下さい。返戻品と致しましては知る人ぞ知る自然豊かな多良岳の環境で健康に育て上げられた『金星佐賀豚』の御協力をいただくことができ、そちらの製品を取り扱っています。

金星佐賀豚ホームページ：<https://www.furusato-tax.jp/product/detail/41001/4672578/101>

POSA ホームページ：<http://www.posaoffice.net/>

御参照の上ふるさと納税などの御寄付をお願いできたらありがたく存じます。



金星佐賀豚 100%のハンバーグセット

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

話は戻りまして、今回参加のドクターは佐野先生、長岡先生（お二人とも自治医科大学の高橋先生の御紹介）、副理事長の井上先生と私。ナースとしましては、春日さん、枝光順子さん。お二人の看護師さんは毎日朝早くからの術前準備に始まり、夜遅くまでの術後の後片付け、翌日に備えての滅菌と毎日約 18 時間のハードワークをこなしていただきました。感謝しかありません。ORT（視能訓練士）としましては吉田さん、高橋さん。ORTの高橋さんは現地で3日目に私の手術助手についていただいた。初めての助手にもかかわらず、こんなに素晴らしいORTがいるのか？とビックリさせられるとても能力の高いORTだった。もちろん吉田さんも素晴らしいORTであることは言うまでもない。一般参加としましては枝光萌里さん。患者さんの呼び出しを含めての雑務を現地孤児院の子供達と一緒にききこなしていただきました。以上9名のメンバーで計96名の患者さんに対し白内障手術を施行した。



向かって左の2番目から
Dr ミジャン、バリさん、一人とばして Dr 井上、Dr 倉富、一人とばして枝光さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

手術症例数及びスクリーニング症例数につきましては下表。下表でもわかるように 699 名のスクリーニングを施行し手術適応者が 126 名。実際には 126 名のうち 76%にあたる 96 名の方が手術会場であるコナバリのエンゼル協会に来られた。初日が 36 名。2 日目が 33 名。3 日目が 27 名だった。

18th Eye Camp of POSA-2019
International Angel Association

Konanari, Gazipur

01/11/2019-05/11/2019

Patients Screening Program

Sl.	Date	Place	Male	Female	Total pts
1	12.10.19 Saturday	Boribari Health Care Center Kapasia, Gazipur	101	133	234
2	19.10.19 Saturday	Fayej Uddin Sarker Universal College, Amraid, Kapasia.	86	104	190
3	26.10.19 Saturday	SAMAS Office Bashbari, Sreepur, Gazipur	63	87	150
4	October'19	Health Care Center, Konabari, Gazipur	56	69	125
		Total	306	393	699

Selected Patients for Operation

Sl.		Place	Male	Female	Total
1	12.10.19 Saturday	Boribari Health Care Center Kapasia, Gazipur	18	17	35
2	19.10.19 Saturday	Fayej Uddin Sarker Universal College, Amraid, Kapasia.	15	13	28
3	26.10.19 Saturday	SAMAS Office Bashbari, Sreepur, Gazipur	17	19	36
4	October'19	Health Care Center, Konabari, Gazipur	13	14	27
		Total	63	63	126

Final Operation

Group Name	Admission	Operation	Release	Male	Female	Patients
A	01-11-2019	02-11-2019	03-11-2019	23	13	36
B	02-11-2019	03-11-2019	04-11-2019	12	21	33
C	03-11-2019	04-11-2019	05-11-2019	14	13	27
		Total		49	47	96

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

今年は久々に IOL（眼内レンズ）挿入が出来なかった症例が一例あった。この症例は術者によると手術開始当初よりチン氏帯が脆弱であり PEA（超音波白内障手術）中チン氏帯断裂が広がり IOL 挿入を断念した症例であったようである。それ以外の 96 名中 95 名につきましては全例合併症も無く IOL 挿入を無事終えている。IOL 挿入不可であった症例は 2001 年バングラデシュアイキャンプ開始以来、総症例数 1408 眼中今回の分を入れて 3 眼くらいであると記憶している。今回の眼内レンズ挿入不可症例については提携のダッカ市内にあるイスラミア眼科病院にて眼内レンズ 2 次逢着を含めての硝子体手術をお願いした。バングラデシュでの白内障手術としては現時点で眼内レンズ挿入率は 99.8% (1405÷1408 ≒99.8%) となっている。POSA の眼科ボランティアの主目的である『術後に裸眼で日常生活をおくれるようになる』にも合致していると思われる。

実際、手術の患者さんを見てみると、水晶体の Emery grade が 4.0 以上（水晶体がとても硬い）の症例が 3 分の 2 を占めておりこれを超音波にて手術するのにはかなり困難がある。グレード 4.0 以上の場合は安全でかつ手術時間も短い P-ECCE（計画的な水晶体嚢外摘出術）にての白内障手術が勧められる。



術後の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA 主催のアイキャンブには、P-ECCE（計画的水晶体嚢外摘出術）のスペシャリストとして現地のドクターミジャンが毎年手伝いに来てくれている。彼は現在世界的に見るとまだまだ白内障手術の主流である P-ECCE の volume surgeon（手術症例数の多い術者）である。先進国では超音波手術が 99% 近く施行されているが、まだまだ発展途上国では超音波白内障手術の割合は 10% 以下であり、P-ECCE 手術が主流となっている。実際のドクターミジャンの手術を見てみる。止血は、先端に鉄製品がついた持ち手が熱伝導の低い木製で出来た棒（つまり木製柄の先端に短い鉄の棒がついた止血棒）。この先端をアルコールランプで熱して創からの出血部位を止血。つまりアルコールランプの火をつけることでその日の計画的水晶体嚢外手術が始まり、昼食休憩や夕方の手術終了とともにアルコールランプの火が消される。

アルコールランプのこげくさい臭いが OPE 室に広がるとバングラデシュでのアイキャンブがいよいよ始まったぞという気分になる。彼の属するダッカ北部にあるマーメイシン病院にとても独自に低所得者層に対しての無料の白内障手術が行われている。彼自身の症例については年間症例数が約 2500 眼、20 年以上前から手術をしているので現在までに 5 万眼以上の白内障手術を施行していることになる。100% P-ECCE であり手術も極めて合理的である。各手技に無駄な動きが無くおよそ 5 分程度で嚢外手術が終了する。ハイリスク症例（例えば、患者さんが動く、硝子体圧が高い、チン氏帯が弱いなど）もあるがその場合でも 15 分程度で手術を終了している。



Dr 井上と Dr ミジャン

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

このドクターミジャンの手助けにより POSA としても安定した症例数を確保することが可能となっている。日本人スタッフが慣れないマシーン、ベット、コミュニケーション不良の各種障害があり四苦八苦している中、冷静に粛々と手術を進める彼はとても安心感のある存在である。

この為、超音波組である Japanese line は心配せずに時間をかけてゆっくりと安全に手術を進めることが出来る。初参加のドクターも戸惑いながらも症例数を重ねるに従って手術時間も次第に短縮されていく様である。

術前の診察にてしっかりグレード分類を行い、チン氏帯が弱そうな症例や各種原因にて超音波にての白内障手術が困難であると予見される症例では計画的な水晶体嚢外摘出術 (P-ECCE) を行う。Emery grade3.5 までを超音波手術 line に、Emery grade4.0 以上の症例をドクターミジャンの行う嚢外手術 line に振り分けている。このように分けると全症例の 3 分の 2 程度が Emery grade4.0 以上となる。我々日本人スタッフは 3 分の 1 程度の Emery grade3.5 までの症例について超音波手術にて取り組むこととなる。



2 line の手術室

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

国内においては volume surgeon（手術症例数の多い患者）でなければ連続で 10 眼以上の手術を行うことはあまりないのではないかとされる。現地では volume surgeon でなくても連続で 10 眼程度の白内障手術を行うことは十分に期待される事である。スタート時はまだまだ各種機械、その他に慣れていないために時間を要することが多く、なかなか 10 眼を連続というのは難しいが、だんだんと慣れてくれば、基本的には若年者でかつチン氏帯のしっかりとした症例が多いので手術も容易にこなす事が出来るようになる。テニスの修造君ではないが「zone」にはいつてくるのである。5 例目くらいから脳内にドーパミンがゾクゾクと放出されていると感じることが出来るようになる。

私はこれを『オペレーターズハイ』と勝手に呼んでいる。この『オペレーターズハイ』の状態で一気に 10 眼以上の白内障手術を施行すればまた次の日も頑張ってみようという気にもなるというものである。この文章を読んでいる一般の眼科医の先生方もこの『オペレーターズハイ』を味わうためにだけでもバングラデシュアイキャンプボランティアの活動に参加する意味があるのではないのでしょうか？

もちろん症例数をこなすことで、それだけ多くの現地の患者様に光を届けることができることにもなる。

ダッカまでの道程は厳しいものですが（途中一泊もしくは半日の空港での待ちが必要）参加して得られるものも多大である。毎日の日本での日常を抜け出し、異国での非日常の白内障手術を年に 1 回程度体験してみるのも良いのではないと思う。

今回参加の佐野先生、長岡先生、ORT の高橋さん、吉田さん、ナースの春日さん、枝光さん、一般参加の枝光さん、現地のエンゼル協会の子供たち（30 名程にお手伝いして頂いている。）また現地責任者のバリさん、そして全体のマネージメントに主に係わって頂いた井上副理事長には大変感謝してもしきれない程である。

感謝しきれないというのは、感謝していないということではなくて、とても感謝しているということです。



リキシャで通院中の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『4年ぶりの手術』

POSA 副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長
井上 望

POSA は長年バングラデシュでのアイキャンプ（白内障手術による失明予防活動）を行ってききましたが 2016 年のダッカテロ事件以降、日本人が訪問しての活動を自粛していました。その後、昨年までの 3 年間は POSA の資金援助により現地ライオンズクラブ病院での白内障手術をお願いしてきました。2018 年になって各国の NGO や企業活動が再開され、日常の平穏が回復したと判断、今年から以前の様な日本人参加のアイキャンプを再開するに至りました。

4 年間のブランクは思った以上に私たちにとって負担がありました。手術に必要な薬剤や消耗品は全てが期限切れとなり新しく揃えなくてはなりませんでした。また、術前検査に必要な超音波測定機と角膜曲率半径測定機が故障していました。例年より多くの予算を要し、例年より多くの荷物(90kg)を日本から持参してのアイキャンプでしたが、何とか滞りなく手術を行う事ができました。これも POSA 会員とその他一般の方々のご寄付のおかげです。

今回は自治医大の佐野先生、長岡先生、出田眼科病院の高橋さん、久留米市の枝光順子さん、萌里さんが新たに POSA アイキャンプに参加して頂きました。いつも参加していただいていくまもと森都病院の吉田さん、当医院看護師の春日さんと少数精鋭みんなで協力して無事に活動できたのは大変喜ばしい事です。今後も皆様のご支援を宜しくお願い致します。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『POSAアイキャンプを実施して』

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ事務局長
前田 泰宏

バングラデシュでテロにより日本人が殺害されるという痛ましい事件があったりして、4年ぶりに日本人眼科医師によるアイキャンプが実施されました。現地の人たちも本当に心待ちにしていたアイキャンプです。アイキャンプではいつもお世話になる現地のミジャン眼科医師も元気に参加され、旧交を温めました。今年は96名の白内障の患者さんが手術を受けて身の周りのことができるようになりました。家族の負担も軽減されたと思います。平和あつての支援活動だと思いますので、バングラデシュの平和を祈り願わずにはいられません。

倉富医師、井上医師その他今回のアイキャンプに携わった皆さんに感謝申し上げます。



現地眼科医による術前の診察

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『POSAのみなさん、こんにちは。』

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者
アジズル・バリ

POSA のみなさん、こんにちは。

2019 年 11 月に 18 回目の Eye Camp をみなさんのおかげで無事終わりました。今回男の方 49 人、女の方 47 人全部で 96 人の方の手術ができ、みんなまた見えることができ、とても喜んでいました。1999 年から POSA や Kanzaki Lions Club のみなさんバングラデシュで目にこまっている方々をたすけていただき本当にありがとうございました。

これからもよろしくお願いいたします。

Md. Azizul Bari
Executive Director
International Angel Association
Konabari, Gazipur
Bangladesh



2 列目の右端がバリさん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『SDGs とライオンズクラブそしてアイキャンプ』

2019 年度 神埼ライオンズクラブ 会長

中村 輝行

2030 年までに持続可能な世界を実現するために飢餓や貧困の撲滅、教育の確保、環境保全など国際社会の諸問題を 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) を誓う SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで採択後、今まさに、レインボーカラーのバッチが世界に広がりを見せています。日本、佐賀県はもとより、学校教育、県内自治体、企業も取り入れはじめました。これは、単なる世界規模の課題解決ではなく、途上国、先進国問わず、人や企業、CSO (市民社会組織) などが、今後どんな社会でありたいか、そのために今何をするか、何ができるかのそれぞれが主体的に未来志向の変革アプローチ型で進められています。世界の出来事を身近な問題と認識 (可視化) する事であり、国際規模で奉仕活動を推進するライオンズクラブにとっては様々な場面に大きなアクティビティテーマとなっていく事でしょう。特に、民間資金導入を奨励する事は、まさしく 100 年以上の持続する歴史を持つライオンズクラブに通じるものがあり、かつて先駆けて組み上げられた先人のライオンズスピリッツにメンバーとして、大きな誇りを感じています。

そのような中、アイキャンプは 2019 年に第 25 回を数え、四半世紀にわたり持続したものとなっており、そのつながりとしかけは国際社会において、卓越したモデルと言って過言はありません。

今後についても、さらなる発展と持続に強い気概と誇りをもって取組んでいきましょう。



現地眼科医による術前の診察

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『Thanks for your Support』

バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー

Md. Mobarok Hossain MJF
District Governor
District 315 B2 Bangladesh



Dear Lions Leader of Kanzaki Lions Club ,Japan. I feel Happy to know that through your Club,POSA Japan arranged Eye Camp in our Country since 1999.

In this world including Bangladesh a lot of people suffering about their Eye.Lions Clubs International took a great initiative about Eye treatment and Cataract Operation all underdeveloped Countries in our World.

We know that Japanese member of Lions Club supporting many other Social Development activities all over the World.

Thanks to all of you and hope your kind support will be continued.

翻 訳

日本の神埼ライオンズクラブ指導者各位

あなたのクラブを通じて、日本の POSA が 1999 年以来私たちの国でアイキャンプを設えてくれたことを私は嬉しく思います。

バングラデシュを含むこの世界では目が見えなくて多くの人々が苦しんでいます。ライオンズクラブ国際協会は、世界中の先進国における眼の治療と白内障の手術について素晴らしい主導権を取りました。

私は、ライオンズクラブの日本人全員が、世界中でその他多くの社会開発活動を支援していることを知っています。

皆様のおかげで、あなたの親切的な支援が維持されることを願っています。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『アイキャンプを通して問い、学ぶ』

自治医科大学 眼科

佐野 一矢

以前から海外での医療活動に興味があった。そんな折、参加経験者の先生から声をかけて頂き、今回の参加に至った。これまで医療資源に恵まれた日本で、不自由なく手術をしてきた。「10-0 ナイロン（糸）新しいのに変えてください。」「バックもう一つ出して。」大学病院での勤務が長いと、一つ一つの物品に対して「もったいない」なんて恥ずかしながらあまり考えたことがなかった。

バングラデシュでのアイキャンプでは、まず物を大事に使うことを学んだ。針糸、ガーゼ、ナイフ類、限られた資源を有効に使わなければならなかった。そして機械。フェイコマシン（白内障手術機械）はとても立派で手術に際して問題はなかった。しかし、破囊等のトラブルが生じるとリカバリーをするには十分な機能が備わっていない。日本にいれば、前部硝子体カッターをつなげて処理なんていうことができるが、ここではできない。日本にいるとき以上のプレッシャーが襲ってきた。絶対に（水晶体を）落とせない戦いであった。

そんな緊張感の中、ふと横に目をやると現地医師のとても洗練された美しい水晶体囊外摘出（ECCE）の手技。止血はアルコールランプを使い（中学生以来久しぶりにみた）、電気機器を一切使わないその手捌きは見ていて感動した。休憩中に教えを乞うた。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

日本に帰ってきて、自分の手術やその心構えを省みた。いろいろな無駄があり、おごりがあった。医療提供に行ったつもりが、それ以上に学ばせて頂いたという気持ちが強い。この機会を与えていただいた、倉富先生、井上先生をはじめ POSA 関係者の方、エンゼル協会の関係者の方、参加者の皆さま、バングラデシュの子供達、患者さん達全てに感謝申し上げます。また 2020 年現地でまたお会いしたいと思います。よろしくお願いします。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『一石三鳥』
自治医科大学 眼科
長岡 広祐

今回初めて eye camp に参加させて頂きました、自治医大の長岡と申します。今回この活動を知った経緯は、以前こちらに参加されていた高橋雄二先生に、東京の硝子体手術勉強会でたまたまお会いした際、「佐野先生、今度バングラデシュに行くらしいけど聞いた？」というひょんな一言から始まりました。佐野先生は現在の私のオーペン（指導医）であり、信頼の厚い先生です。バングラデシュで白内障手術のボランティアをする、その言葉だけで非常に興味を持ち、是非参加したくなりました。行ったことのないバングラデシュという地で、白内障手術のスキルアップも期待できて、人のために奉仕できるという、もはや一石三鳥のイベントで魅力しかありません。そこで参加希望を佐野先生から井上先生に連絡してもらい、無事参加できる次第となりました。

日が近づくにつれバングラデシュのことを調べるも、地球の歩き方バングラデシュが巡った本屋どこにもおいていない！それはそうだ、バングラデシュは観光地ではないみたいですので。ネットでバングラデシュ情報を調べると、数年前にあったテロのこともあり、国から危険レベル2（不要不急の渡航禁止）の地域として指定されており、間近になって少し疎んでいました（笑）。

実際着いてみると、空港のトイレは作り途中で汚かったり（これでも以前よりは良くなったと聞きましたが）、イミグレーションではハイテンションガイと上手く意思疎通できないまま笑いながらお喋りするという、過去に例を見ない入国審査だったり、到着早々衝撃的でした（笑）。

空港からは車で移動でしたが、外の景色は今まで見たどの海外の景色より啞然としてしまう光景でした。人が溢れ、砂ぼこりが舞う道路で、建物や自動車、自転車の汚れが目立ち、これがアジア最貧国の一つであるバングラデシュか、と深く衝撃を受けました。

さて、拠点に着いてしまえばそこはオアシスのようなところで、不安も一気に消え去ってしまいました（笑）。着いた当日1日目は、手術室の準備、翌日手術の患者の術前検査を分担して行いました。2日目から適宜手術に入り、助手、執刀をさせていただきました。最終的に私が執刀したのは10～15例程度でしたが、日本の整った環境で行う手術とは全く異なり、道具も限られ、顔の彫りが深く、言葉も通じず、進行した白内障ばかりで、総合的にみても難症例ばかりでした。これだけの環境で、綺麗には言えませんが手術できたことは、私にとって非常に自信にもなり、今後の糧となるだろうと実感しました。が、自信満々で帰国した直後の手術は調子が悪かったです・・・（笑）。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

手術以外では、毎食のカレーがとても美味しくずっと食べていられると感じたこと、短時間ですが近くのバザールへ出向きまたもや衝撃を受けたこと、子供たちが皆良い子で非常に可愛かったこと、他、様々なことに心を揺り動かされました。また、このようなボランティアに参加されている方々は皆、心にゆとりがあり、意識が高く、非常に優しい人たちばかりで感化されました。

大袈裟かもしれませんが、今回参加させていただけたことは、私にとって本当に大きな出来事で、大変貴重で素晴らしい経験となりました。以前からこの様な人のために何かをしたいという思いを根底に持って生きてきましたが、今回それが一つ経験できたのだな、という深い感動がありました。今回関わりのあった全ての方に深く感謝致します。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『アイキャンプに参加して』 くまもと森都総合病院 視能訓練士 吉田 幸代

4年ぶりに参加させていただきました、視能訓練士の吉田幸代です。長年活動されているPOSAのアイキャンプに再び参加することができまして嬉しく思っています。

私の周りではこの4年の間に、平成28年の熊本地震、29年には勤務先のくまもと森都総合病院の新築移転など大きな出来事がありました。また日本の国としても新しい天皇陛下が即位され元号も平成から令和に変わりました。バングラデシュもこの4年の間にどのような変化を遂げたのかと楽しみに参加しましたが、実際には道路事情も悪く街は混沌とした様子で4年前とあまり変わっていないように見えました。今回手術を受けにいらした患者様方も痩せた方が多く、日々厳しい生活を送っていらっしゃる様子が伺えました。私の個人的な感想としては、この国が自力で豊になって国民の幸せを達成するのは難しいのではないかと、まだまだ国際社会の助けが必要なのだろうと思いました。

さて、白内障手術とは簡単にいうと、白く濁ってしまった水晶体を取り除き、人工の水晶体を移植する手術です。この人工水晶体は眼内レンズ(IOL=Intraocular Lens)といいます。私たちPOSAの手術では患者様により快適な生活を送ってもらうために、日本で行っている手術と同じようにお一人お一人の目を計測し、その方の目にあった眼内レンズを移植しています。この眼内レンズは私たちの活動を支援してくださっている企業や個人の方々からのご寄付で準備しているのですが、一回に持ち込める数には限りがあります。そこで私たちはどの度数の眼内レンズを何枚使用したかを記録していき、次回以降の準備の参考にしています。今回使用した眼内レンズの度数と枚数をまとめましたので報告いたします。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

最多使用の度数は22.0Dの19枚で、その後は23.0Dの14枚、22.5Dの13枚と続きます。今回記録できた分の眼内レンズの使用枚数は98枚でした。上記の3つの度数だけで46枚となり使用枚数の半数は22.0Dから23.0Dだったことになります。この結果は平成25年の使用枚数の記録とも一致していますので、次回も22.0Dから23.0Dの眼内レンズを多めに準備していくと良いと思います。

バングラデシュのアイキャンプから帰国し、自分の病院で勤務するといつも不思議な気分になります。この感覚を言葉で表すのは難しいのですが、飛行機でほんの数時間離れた所に同じ時間に生きていて、同じ白内障の診察を受けていらっしゃる2つの国の患者様方、皆様に同じように良好な視力で色んな物を見て頂きたい、そして今後もそのお手伝いができればと思います。今回ご一緒させていただいた倉富先生、井上先生はじめ優しく頼りになる参加者の皆様、現地バングラデシュ人スタッフの皆様、日本での準備や手続きを行ってくださったスタッフの皆様、私を快く送り出してくださったくまもと森都総合病院の皆様、大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。



左端が吉田さん引き続いて Dr 長岡、Dr ミジャン、Dr 佐野

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『カレーな日々』

出田眼科病院 視能訓練士

高橋 慎也

いつも国内ばかり飛び回っている私は、久しぶりの海外が今回のバングラデシュでした。視能訓練士として誰かの役に立ちたいなと思っていた時、学会で今回同行させていただいた吉田さん（視能訓練士）とお会いし POSA と繋いでいただいたのが縁になります。

到着してすぐに明日の手術をするための機器の準備でした。私たち視能訓練士は新品の A モードと壊れかけのオートレフケラトメーターを使用して術前検査を行いました。手術を受ける方たちの白内障のグレードは 3 から過熟レベルの方がほとんどです。視力は推定ですが、0.1 以下と思われます。日本での術前検査でも「まっすぐ中のぞいてください」や「もう少し右ですよ」などの声かけをして検査を行います。バングラデシュはベンガル語ですので私の拙い英語も患者さんには全く通じず、言葉の壁を痛感しました。吉田さんが難しい角膜屈折力を測定していただき、私は眼軸長を測定しました。バングラデシュ人は基本的に彫りが深く、いつも行なっている感覚とは違って最初は戸惑いましたが、二日目、三日目と機器の特性にも慣れ正確な検査ができたのではないかと思います。



2 列目の左端が高橋さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

最終日は、前半組が帰国し、初めての直接介助を倉富先生のご指示にてさせていただきました。先生と息を合わせて手術をするのはとてもいい経験になりました。

手術を終えた患者さんからは「ありがとう」、「明るくなったよ」と表情から感じ取ることができ、とても嬉しい気持ちになりました（表現がオーバーではないので少しわかりにくかったですが）。

吉田さんからカレーが美味しいよと前振りがあつての食事は、毎日カレーで毎食配色がイエローでした。美味しいのですが、毎日カレーだとやっぱり飽きるものですね。最後には腸がびっくりしていました。こんな経験ができるのも POSA ならではですね。

多くの経験をさせていただき、人としても視能訓練士としても大きくなれたと思います。また、次回も参加させていただきたいと思います。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『10年ぶりのアイキャンプ』

菊池眼科 看護師

春日 望

昨年井上院長がバングラデシュを視察、今年のアイキャンプ行きが決まり、参加しないかと声を掛けて頂きました。前回参加したのはちょうど10年前、アイキャンプの記憶もうっすらとした状態でしたし、前回はいなかった小学3年生の娘がいるため、かなり悩みました。娘は『寂しいし、泣いちゃうかもしれないけど、ママが頑張るならお留守番頑張る!!外国の写真、いっぱい撮ってきてね!!』と言ってくれ、参加を決意しました。

あっという間に出発の日を迎え、後ろを向いて泣いている娘に見送られ旅立ちました。飛行機での移動は膝が痛くて辛かったけど、Bangkokに到着する時の飛行機の窓から見えた夜景がキレイすぎて、痛みも忘れてワクワクしました。飛行機を乗り継ぎダッカの空港に着き、荷物が1つ届いていないというトラブル発生!英語が堪能な吉田さんがカウンターでやりとりする姿はとてよかったです。

ダッカからバスに乗ると、相変わらずの渋滞と多分運転手全員が鳴らしているであろうクラクション、道端の洗濯物は大丈夫なのかと心配になるほどの土埃り。10年前に衝撃を受けた時から、その風景はしっかり覚えていて、若干の懐かしさもありました。

エンゼル協会では子供たちがいい匂いの花飾りを準備して出迎えてくれました。みんな人懐っこく、すぐに手を繋ぎ、話しかけてくれました。子供たちは少しの日本語と英語で質問してくれますが、勉強不足の私はどんな時も身振り手振りに簡単な英単語をつけて返事するのがやっとです。

到着するなり、明日からの物品チェックと滅菌作業に取り掛かりました。いつも仕事でしている事を現地バージョンに変換しながら、手術の様子をイメージして必要物品を準備しました。3日間にわたり1日30人以上の患者さんが手術を受けられます。

手術は朝から夕方19時ごろまで行われました。1日目は気も張っていたせいか、夕食後にシャワーを浴びてベッドに横になっていたら、すぐに爆睡していました。環境が変わってもいつでもどこでもすぐに寝られる体質でよかったです。

2日目、3日目となると、だんだん慣れてきて余裕も出てきました。帰国する方々を見送りながら、最終日を迎えて手術が全て終わり、片付けが完了した時の達成感は何とも言えない気持ちでした。最終日、セレモニーに参加し、患者さんはものすごく感謝されていて、素敵な笑顔で握手やハグを求められました。言葉を発さなくても、表情で気持ちは伝わるものだたと改めて感じました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

久しぶりの参加でどうなるのかなと不安もいっぱいでしたし、2日目に滅菌の際に手術器具が溶けてしまうというトラブルも起こり、心臓が止まりそうになりましたが、皆さんのお陰で乗り切り、無事にアイキャンプを終えることが出来ました。

それから、日本でのリクライニング式手術ベッドと異なり、現地の手術台はフラットなものだったので、高齢の患者さんが仰向けになるのは辛いのではないかと心配したのですが、誰一人として腰の曲がった方がおらず驚きました。車社会の日本人に比べて、きっと歩く事が多い生活を送っていらっしゃるのかなと思い、私も日頃から動く、歩く事を心がけようと思いました。

帰国し、おかえりー!! と飛びついてきた娘に写真を見せながら、アイキャンプでの出来事を話すと、将来の夢はタピオカの移動販売からボランティアに参加することになったそうです(笑)。

今回アイキャンプに参加させて頂き、貴重な体験ができた事に感謝いたします。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『アイキャンプに参加して』

えだみつクリニック 看護師

枝光 順子

5年前の「アイキャンプ」に主人と長男、長女の3人で参加させて頂いた。

当時小学生だった二女と私の二人でお留守番。主人が帰国後「栞里（長女）も輝（長男）も良い刺激を受けたみたいだよ。機会があれば萌里（二女）と行ってきたいいいよ。」と言ってくれた。その後は悲惨なテロが起こり中止を余儀なくされていた「アイキャンプ」。我が家では平和について考える機会も与えてくれていた。

今年「アイキャンプ」の再開を知らせてくれたのも POSA の会員である主人で、私は高校2年の娘の付き添いで参加する事となった。あくまで付き添いのつもりであった。始まる前までは…。

10月31日の朝バタバタと準備をしてバス停まで送ってもらっている車の中で娘が「お父さん、お母さん結婚記念日おめでとう。」と言ってくれた。私も主人もすっかり忘れていたが26回目の結婚記念日にバングラデシュに向けて出発した。

中部国際空港で井上先生、春日さん、吉田さん、高橋さんと合流してバンコク経由でダッカへ。バンコク空港で佐野先生、長岡先生と合流し総勢8名でダッカへ向かった。空港での入国手続きの時や預けていたバッグが届いていない等色々なハプニングがあったが割愛する。

金曜日で比較的に空いてるらしい道路を通りエンゼルハウスへ向かう。人、自転車、バイク、車ひしめき合っていて十分に刺激的であった。到着すると子供達が可愛い笑顔でお花の首飾りをかけてくれた。みなさんに迷惑をかけない様に気をつけて過ごさなくてはならない、娘共々。そう思った。

私は肩書きを持っていない。強いて言えば 主婦か元看護師である。「アイキャンプ」で私に出来る事があるのか不安だったが、多分何か有るだろう。「私何をしたらいいですか？」と尋ねると、春日さんと一緒に手術室の準備をして明日からは手術室で間接介助をお願いします、との事。春日さんは井上先生の眼科のベテラン看護師さんでとても頼りになる方。でも私、手術室なんて学生時代の実習以来なんですけど…。不安でいっぱい。しかしボランティアでバングラデシュに来ているからにはやれる事は何でもやらなくてはならないと気持ちを切り替えた。

それからの四日間は手術室にこもりっきりになった。特に手術が行われた三日間は正に朝から晩までお昼の休憩時間以外は仕事に追われ過ぎた。現役時代よりハードだったかもしれない。先生方、春日さん本当にご迷惑をおかけしました。器具も薬品も初めて見る物ばかりで、やっと慣れた頃には終わってしまった。そんな感じだった。付き添いでは無かった事をこの時に知った。

井上先生、佐野先生、長岡先生、吉田さんが帰国され、後から来られた倉富先生も帰国された「アイキャンプ」の最終日、春日さん高橋さん娘の萌里と私の4人が残っていた。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

私はこの日初めて手術室の外で患者さんと接した。恐怖に怯えた表情で入室され魂の抜けた様な感じで退室される患者さんしか見ていなかったのだ。術後の診察を終えられた女性の患者さんが嬉しくてたまらない様子で近づいて来られ、何度も何度もハグをして最後にほっぺにキスまでしてくださった。想像するに彼女は昨日までの世界と違った明るい世界に驚き興奮し感謝してくださっていたのであろう。私も胸が熱くなり涙が出た。医療に携わる人としての感情を忘れてはいなかった様だ。「来て良かった」としみじみ思った。

「アイキャンプ」の間、自分の事に精一杯で萌里の事を気にしてやれなかったのがご迷惑をお掛けしたと思う。吉田さん高橋さん春日さんをはじめ皆様、母娘共々お世話になりました。ありがとうございました。

補足になるが萌里は彼女なりに充実していたらしく、とても素敵な笑顔で子供達と話していた。一緒に映った写真を見ると私より随分大きくなっていたし、帰りのバンコクでの待ち時間もスマホ片手に街中まで案内してくれた。我が家では一番小さくていつまでも子供だと思っていたが確実に成長していた様だ。

帰国後、私も萌里もとても楽しかった又参加したいと思った。しかし来年は行けない。萌里の大学受験が目の前に迫っている。

毎年「アイキャンプ」を企画し実行されていらっしゃる倉富先生、井上先生は素晴らしい。敬意を表します。

最後に「アイキャンプ」参加に背中を押してくれた主人。留守の間おにぎりを作って予備校に行ってくれた輝。ありがとうございました。



左から枝光萌里さん、高橋さん、春日さん、枝光順子さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『Third World Country』

学校法人 都築育英学園 リンデンホールスクール中高学部

枝光 萌里

アイキャンプに母と一緒に参加することがいつの間にか決まっていたのが六月頃。特に行きたい、行きたくない、という感情がないまましばらく過ごしていたが、夏休みに参加したサマーキャンプで先進国、発展途上国をひっくりめた世界の問題について議論をした時、自分がいかに発展途上国というものを理解していないかを痛感した。そして発展途上国について少しでも知りたい、また自分の将来に何か影響を与えるかもしれない、と思ってからは参加を心待ちにしていた。

アイキャンプへの参加はもちろん、バングラデシュも初めて。福岡を出発し名古屋、バンコクを経由してバングラデシュに降り立った。エンゼルハウスへ向かっている道中で目の当たりにした舗装されていない道路、信号もなく車にお構いなしに道を渡っていく人々、鳴り止まないクラクション、道の横に溜まっている大量のゴミ。この時初めて「発展途上国」の実態が少し分かったような気がした。題名である”Third World Country”とは英語で発展途上国という意味である。実際に訪れてみた発展途上国は衝撃的で、驚くことばかりだった。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

いざ手術が始まると、間近で見ると痛くないと分かっているにもかかわらずとても痛々しく見えた。患者さんにとっては目が見えるようになる素晴らしい手術であるが、私は目の手術だけは受けたくない、と思うほど初めて見た手術は生々しかった。白内障どころか目についての知識が全くなく、また手術室では初めてのことでばかりでほとんど何もすることが出来なかった。そして手術室に入っていない時は外回りの仕事。仕事を教えてもらい、いざ張り切ってやろうとすると良いのか悪いのか、現地の看護師さんと子供たちがなんでもやってくれて、私がすることなどほとんどなかった。子供たちはびっくりする程働き者で、看護師さんを手伝うだけでなく私の相手までしてくれた。私が立っているとすぐに「座って」と言ってくれたり屋上に連れて行ってくれたり、まだ使いこなせていない英語を使って懸命に話しかけてくれる姿は可愛らしくて子供たちと過ごした時間は本当に楽しい思い出となった。現地の看護師さんや患者さんには英語も通じない方も多く、言語の壁はやはり大きいと感じた。バングラデシュのような国にこの年で行けることは貴重な経験であり、とても学び多き一週間だった。また機会があれば、是非参加したい。

最後に、何もわからない私に丁寧に色々なことを教えてくれた先生方、スタッフの方、本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入会金納入のお願い』

平素より POSA 活動のご理解ご協力有難うございます。
ご存知の様に POSA は皆様方の寄付金や年会費により活動しています。
POSA は佐賀県ふるさと納税対象団体に指定されています。つきましては同制度を利用して POSA へのご寄付をご考慮して頂ければ幸いです。

※佐賀県在住の方でも寄付は可能です。(返礼品はないですが、寄付金控除はあります。)

佐賀県以外に在住の方の場合は寄付金控除と返礼品いずれも可となります。

☆1. ふるさと納税は※寄付金控除の対象となります。

※寄付金控除とは納税者が国や地方公共団体等に寄付をすると受けられる所得控除と税額控除のことです。 ※総所得の 40% までの寄付金が所得控除となります。

☆2. さらに住民税の 2 割までの寄付額については、有利な条件で控除を受けることが出来ます。

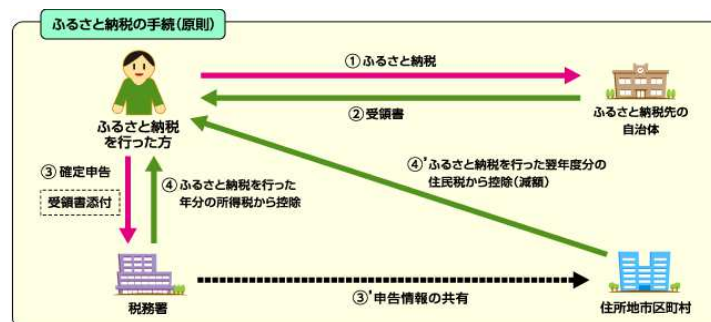
※ふるさと納税寄付金の 2,000 円を超える金額すべてが翌年の住民税から減免されます。

※確定申告もしくは「ワンストップ特例制度」の申請が必要となります。

※ワンストップ特例制度は次の 2 つの条件を満たせば、利用できます。

- ① もともと確定申告をする必要のない給与所得者等であること
- ② 1 年間の寄付先が 5 自治体以内であること

POSA にふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンブにて現地の白内障手術の為の経費に充てられます。収支は POSA のホームページでも公開し経理の透明性を保っております。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法』

○クレジット決済・郵便振替ご希望の方

1. G o o g l e などのインターネットで「ふるさとチョイス」を検索
2. 「ふるさとチョイス」のホームページをクリック⇒「自治体でさがす」をクリック
3. 九州地方「佐賀県」をクリック
4. 佐賀県の自治体一覧の「佐賀県 NPO 支援ページはこちら」をクリック
5. カテゴリーの「肉」⇒「ハム・ソーセージ・ハンバーグ」をクリック
6. 寄付金額の「上限なし」のところに 10000 を入力して「絞り込み」をクリック
7. 「ハンバーグセット 10,000 円」「生ウインナーハンバーグセット 10,000 円」「金星セット 10,000 円」の中からご希望される返礼品をクリック
8. 「寄付へ進む」をクリック
9. 「この自治体の申し込みへ進む」をクリック
10. 会員登録がお済みの方は「ログイン」をクリック、お済みでない方は「会員登録して寄付する」か「会員登録しないで

寄付する」をクリック

11. ○ 1) 特定非営利活動法人 POSA の「○」をクリックして「次へ進む」をクリック
12. 必要情報の入力をして「次へ進む」をクリック
13. 申し込みオプションの設定に必要事項を記入。
※ふるさと納税は確定申告をする必要があります。

但し、条件を満たせばワンストップ特例制度という確定申告が不要の制度を利用できます。

※ワンストップ特例制度をご利用の方は、「希望する」に必ずチェックを入れてください。申告特例申請書が送られて来ますのでご記入の上、必ずご返送下さい。

14. 「確認へ進む」をクリックし、入力内容を確認する
15. 申し込み確認事項を読んでいただき問題がなければ、「上記に同意する」にチェック
16. 「申し込みを確定する」をクリック →完了

POSA 会員にご入会頂いた皆様は、今後は入会金（10,000 円）や年会費（10,000 円）の納入もふるさと納税制度を利用されますと個人の自己負担は少なくなります。

入会金や年会費納入の場合は・・・その他 佐賀県へのメッセージの欄に「寄付金、入会金、寄付金」のうち該当するものをご入力下さい。（複数可） 例：寄付金 30,000 円、年会費 10,000 円

○クレジット決済・郵便振替以外をご希望の方

1. G o o g l e などのインターネットで「ふるさと佐賀県応援サイト」を検索
2. 「ふるさと佐賀県応援サイト/佐賀」のホームページをクリック
3. ふるさと納税を通じた NPO 等の支援についての「ふるさと納税（NPO 等の支援）のお手続き」をクリック
4. 「寄附する（ふるさと納税（NPO 支援）お申込みフォーム）」をクリック
5. 金融機関・コンビニエンスストア・郵便局窓口等で振り込みを希望される方の「金融機関・コンビニ・郵便局窓口お申込みフォーム」をクリック
6. 「ふるさと納税（NPO 支援）お返しの品お申込みフォーム」をクリック
7. 必要事項を記入⇒「入力内容確認」をクリック⇒「送信する」をクリック⇒完了

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「返礼品」

自然豊かな多良岳の環境で、健康に育て上げたこだわりのブランド豚「金星佐賀豚」です。
金星佐賀豚の特徴は、ドリップが出にくく、脂身がギュッと詰まった肉質は、高品質できめ
細かく、口に入れると豚肉が持つ旨味が口の中に広がります。

くらとみ眼科医院ホームページ：<http://kuratomiganka.com/>

POSA ホームページ：<http://www.posaoffice.net/>をご参照ください。

金星佐賀豚 100%のハンバーグセット (寄付金 1 万円につき 1 セット)



金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ウインナーのセット (寄付金 1 万円につき 1 セット)



ご家庭で一番使い勝手の良い、切り落とし (300 g) をお付けした 金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ウインナーの金星セット (寄付金 1 万円につき 1 セット)



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2019 年度事業報告

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA)

本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈現地眼科医及びによるバングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2019 年 10 月 31 日から 2019 年 11 月 6 日まで

実施期間：2019 年 11 月 1 日から 2019 年 11 月 5 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション
(IAA)

本部クリニック施設にて

派遣員：9 名

眼科医 4 名 倉富 彰秀 井上 望 佐野 一矢 長
岡 広祐

視能訓練士 2 名 吉田 幸代 高橋 慎也

看護師 2 名 春日 望 枝光 順子

学生 1 名 枝光 萌里

活動内容：現地の眼科疾患の症例及び 699 名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び 96 名の白内障手術を実施。

国内啓発活動：バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金
バングラデシュの現状についての啓発活動



スクリーニングを待つ人たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSAアイキャンプ白内障手術の症例数

	実施年	実施場所	手術など	症例数
第1回	1995年2月	インド	白内障手術	37眼
第2回	1995年12月	インド	〃	99眼
第3回	1996年12月	インド	〃	125眼
第4回	1997年12月	インド	〃	184眼
第5回	1998年12月	インド	〃	184眼
第6回	1999年12月	インド	〃	127眼
第7回	2000年12月	バングラデシュ	症例調査 スクリーニング	0眼
第8回	2001年12月	バングラデシュ	白内障手術	13眼
第9回	2002年12月	バングラデシュ	〃	55眼
第10回	2003年12月	バングラデシュ	〃	86眼
第11回	2004年12月	バングラデシュ	〃	81眼
第12回	2005年12月	バングラデシュ	〃	61眼
第13回	2006年12月	バングラデシュ	〃	75眼
第14回	2007年12月	バングラデシュ	〃	73眼
第15回	2008年12月	バングラデシュ	〃	63眼
第16回	2009年12月	バングラデシュ	〃	88眼
第17回	2010年12月	バングラデシュ	〃	102眼
第18回	2011年12月	バングラデシュ	〃	105眼
第19回	2012年12月	バングラデシュ	〃	107眼
第20回	2013年12月	バングラデシュ	〃	103眼
第21回	2014年2月	バングラデシュ	〃	123眼
第22回	2017年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	55眼
第23回	2018年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	82眼
第24回	2018年11月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	40眼
第25回	2019年11月	バングラデシュ	〃	96眼
			合計	2,164眼

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2020 年度事業計画

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション

(IAA)

本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2020 年 10 月 30 日から 2020 年 11 月 5 日まで

実施期間：2020 年 10 月 31 日から 2020 年 11 月 4 日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション

(IAA)

本部クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医師及び看護師及び視能訓練士及び一般参加



スクリーニングを待つ人たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2020 年 POSAアイキャンプ日程

前半組

10 月 30 日(金) 日本各地発バンコク行きバンコク宿泊 又は深夜 24:30 中部発 TG647 か
24:20 羽田発 TG661 早朝バンコク着
10 月 31 日(土) バンコク発 10:55 TG321 ダッカ着 12:30 手術準備
11 月 1 日(日) 手術 1 日目
11 月 2 日(月) 手術 2 日目
11 月 3 日(火)(祝) 手術後診察 ダッカ TG322 13:40 発バンコク行き
11 月 4 日(水) 深夜バンコク発 早朝日本各地着

後半組

11 月 1 日(日) 日本各地発バンコク行きバンコク宿泊
又は深夜 24:30 中部発 TG647 か 24:20 羽田発 TG661 早朝バンコク着
11 月 2 日(月) バンコク発 10:55 TG321 ダッカ着 12:30
手術 2 日目午後より参加
11 月 3 日(火)(祝) 手術 3 日目
11 月 4 日(水) 手術後診察 終了後 ダッカ TG322 13:40 発バンコク行き
11 月 5 日(木) 深夜バンコク発 早朝日本各地着

お問い合わせ先 POSA 日本事務局 くらとみ眼科医院
〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ケ里 2435-1
TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685
E-mail アドレス : posa@train.ocn.ne.jp (担当者: 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

暖かいご支援ありがとうございました。

敬称は省略させていただきます。(順不同)

紙面の都合上、掲載されていない方もおられます。ご了承ください。

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

【寄付者】

松本 いく子 松川 文江 坂本 紀久恵 若山 久栄 中村 和義
中村 るみ 菊池眼科患者様御一同 くらとみ眼科医院患者様御一同

【眼鏡】

国際ソロプチミスト協会 久留米 日本眼鏡リサイクルセンター



スクリーニングを待つ人たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA 理事・監事

理 事 長	倉 富 彰 秀	(医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長)
副理事長	井 上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
	八 谷 克 幸	(佐賀県会議員)
理 事	橘 光 幸	(橘商事 代表)
監 事	末 永 博 義	(末永司法書士事務所 代表)
	峰 悦 男	(峰公認会計士事務所 代表)

(順不同)

POSA 名誉会員

名誉会員	山 口 祥 義	(佐賀県知事)
	中 尾 清 一 郎	(佐賀新聞社 社長)

(順不同)

POSA 一般会員

芥川 泰生	東 キヨ子	伊崎 祐介	井上 香奈子	井上 麻記
今村 玲南	宇野 光次	江崎 円香	枝光 理	各務 晃子
倉富 亜由美	小森 啓範	砂原 伸彦	世戸 憲男	高橋 雄二
高橋 良太	瀧本 峰洋	田中 清隆	照屋 武	照屋 邦子
西本 千紘	沼田 公子	秀島 正博	福島 武	堀 秀行
松本 博	森岡 千鶴子	安谷 久美子	山口 克宏	吉田 幸代
與那嶺 豊	佐野 一矢	長岡 広祐	高橋 慎也	(株)神埼薬局
参天製薬(株)	(株)日本点眼	(株)毛利工務店		

(順不同)

POSA (ボサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壹万円、及び年会費壹万円を納入しなければならない。

POSA 一般会員入会を随時受け付けております。ご連絡下さい。(POSA 事務局 TEL:0952-52-8841 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



スクリーニングを待つ人たち

Project Operation Sight for All

POSA 事務局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mail アドレス posa@train.ocn.ne.jp

2020 年 4 月発行